

# 湯来ふるさと新聞

第十号(12月28日号)

発行者  
湯来ふるさと  
プロジェクト  
広島市佐伯区  
湯来町伏谷535  
☎0829-83-1160

## ギネスに挑戦! 大釜でこんにやくを作ろう

12月16日(土)に、湯来西公民館と隣の河内神社・鎮守の森で「ギネスに挑戦!大釜でこんにやくを作ろう」を湯来ふるさとプロジェクトと湯来二ニュートリズム推進実行委員会の共催で行いました。

今年、自然災害やドッグバーク事件で全国版の二ニュースになった湯来町ですが、内容は良いものはありませんでした。そこで、2006年の最後に、元気が出る企画をやるという話が、急遽、11月の定例会で浮上したのです。2006年を締めくくる活動として、忘年会的なことやコンサートなどの開催も候補になりましたが、「何かに挑戦したいね」「湯来といえはこんにやくだよね」という話から「ギネスに挑戦!大釜でこんにやくを作ろう」に発展したのです。



▲スタート前に、円陣を組んでミーティング



▲匠の指導で、参加者がこんにやくをこねました

栗原さんが大きな釜(高さ・直径ともに1.7m)を快く貸してくださいました。しかし、どのくらいの水を入れて、どのくらいの火力が必要で、どのように使えばいいのかまったくわかりません。さらに、こんにやくを作ろうと企画している当の本人たちは、こんにやくを作ったことが無い有様!時間が無い。準備ができない。こんなことではダメだ!止めよう...と途中で何度も思った人もいました。が、とにかく「やるしかない!」という状況の中で進みました。当日がやってきました。前日、遅くまでかかって大釜の設置をしていました。火を焚いて煙が上がります。西公民館の調理室では手際よくこんにやく芋が茹がかれ始めました。PR不足のため、一般参加者はほんの少し。でも地域の人達が会場に集まっていました。

企画が進み始めると、皆さんのおかげでこんにやく作りは順調に進みました。しかし、どういうわけか2鍋だけは、不ぞろいなこんにやくになってしまったため、早速、料理して振る舞いました。(後になって困ることも知らず...)「おいしい!」と好評でした。あらかじめ茹でましたこんにやくを大釜に入れました。自ら「ファイヤーキーパー」と名乗っていたメンバーの宮本。彼の体は、自然に塩と水分を求めています。たちのぼる湯気の間から見た大釜の中のこんにやくはまるで「煮豆」のよう。茹で上がったこんにやくを袋詰して計量。ワクワクしながら計算します。そして合計、77、43キロのこんにやくができあがりしました(公式数値)。残念!100キロには届かず...。



▲大釜で茹で上げられるこんにやく

とりあえず、事故も無く終わりました。天気もまずまずでした。(翌日の17日は雪が降りました。)本当にドタバタでした。

### ギネスこんにやくを終えて

湯来ふるさとプロジェクト会長 佐々木大五郎

師走の忙しい中、このイベントにご協力いただいた皆様、どうもありがとうございました。おかげさまでなんとか、無事イベントを終了できました。

この企画に際し、反省することは多々ありますが、この短期間で立案から実際に開催できたことで、私自身「湯来地域」の底力を少なからず感じる事ができました。やはり「人ありき」です。



▲虫取り網でこんにやくを引き上げました

来年も、何かしら湯来地域が元気になる活動・そして関わりを持った方が元気になれる活動を考え、実行にうつせていけたらと思います。

追伸 出来たこんにやくの総重量は100キロに届きませんでした。ギネスに申請する予定です。

大釜を貸してくださった栗原さん。こんにやく作りの指導をしてくださったええじやあ多田さん、余暇ろう会さん、巻きつ娘グループさん。会場で湯来のおいしいものを出店・販売してくださった森栄さん、フジトシ食品さん、湯来南高校家庭クラブさん、花草会さん、みるく工房さん、ゆきつ娘さん、ええじやあ多田さん、余暇ろう会さん、砂谷牛乳さん。名水「天上山」を提供してくださった第一管工さん。会場など全面的にバックアップしてくださった湯来西公民館さん。備品などを貸してくださった南公民館さん、農村環境改善センターさん、湯来南高校さん。燃料の木を提供してくださったウッドタウンゆきさん。ガスの手配などをしてくださった広島ガス湯来販売さん。とにかくあれこれ動いてくださったJAの田中さん。ファイヤーキーパーの助手を務めてくださった皆さん、ありがとうございました。

TV放映のお知らせ  
1月13日(土)市の広報番組「ひろしま元氣百倍!」午後4時55分(5分間)中国放送